



# 住み慣れた地域で 楽しく夢のある活動を

神奈川県厚木市 一般社団法人コミュニティカフェ荻野





小田急線の本厚木駅からバスで約30分。厚木市萩尾地区にあるとびお鷹尾団地は1977年にURが開発した約3000世帯の住宅街が広がり、近隣には日本最古の一等三角点の1つがある鷹尾山を控えた緑豊かな環境にある。鷹尾団地バス停で降りると、銀行、郵便局、スーパー、商店などが立ち並び、その一角にある「Tobioギャラリー」を訪れる。今回、この鷹尾ギャラリーを拠点に活動する、一般社団法人コミュニティカフェ荻野(代表・土谷知男さん)取材した。

カウンターで淹れ立てのドリップコーヒーを頂き、代表の土谷さんに話を伺う。同会は、2012年に荻野公民館長から「定年後の男性は地域とのつながりを持ってもらいたい」という提案がきっかけで始まった。定年後の男性を中心に、尾崎さん池本さん岩崎さんほか有志約30人が集まり、当初は座談会や勉強会を行うなかで「地域のためになる何かをやるう！」と声が上がった。そこで、学校や児童館の窓にゴーヤカーテンを作る省エネ活動を皮切りに2013年よりボランティア活動をスタート。やがて、高齢者がホッとできる居場所づくりと自分たちの活動拠点を設ける必要性を感じ、UR都市機構と交渉のうえ団地商店街の貸店舗を確保し、2016年に「Tobioギャラリー」を開設。同会の組織を一般社団法人化してメンバーを社員とし、厚木市からの助成金を受けながら、活動の基盤を作っていた。「住み慣れた地域で最後まで楽しく生活できる地域づくり」を目指して、現在の主な活動として、地域の居場所「Tobioギャラリー」の運営、生活の上のお困りごと支援、地域コミュニティ交通「ココモ」の運用管理支援、世代間交流などに取り組んでいる。

「Tobioギャラリー」は、コーヒーや友人との談話、写真や絵などの展示物を鑑賞できる憩いの場として誰でも利用で



きる。月曜、土曜の10時〜16時に開設し、メンバーが輪番でギャラリーを担当する。利用者にはお気持ち代として100円をお願いしている。横浜から2年前に移住してきた女性は「誰も知り合いがいなくて不安だったけれど、ここに来ると気軽に話しかけてもらい、気持ちが明るくなるので毎日のように来ています」と笑顔を見せる。この日は、壁一面に絵手紙サークルが制作した年賀状が飾られ、作品に見入る来場者も多い。この絵手紙サークルを主宰する萩原さんは「多くの方に作品を見てもらえるギャラリーの存在が、自分たちの制作のやりがいにも繋がっている」と話す。憩いの場での住民同士の関わりが、地域に何かを生み出す場にもなっているようだ。

同会の活動のなかで、近年、住民からの要望が増えているのが「お困りごと支援」。電球交換や網戸の張替えといった生活上の困りごとから空き家管理まで対応している。担当の山崎さん川原さんを中心に、現場に赴いて作業時間や費用の見積もりを行い依頼者の了解を得たうえで実施し、一人暮らしの高齢者を優先して対応する。この日同行したお宅では、アシサイやキンカンやユズなど、依頼者の思いが詰まった庭の手入れを引き受けている。依頼者の方は「昔は自分でやっていただけけど、今では手が届かないのでありがたい」と話す。

また同会は、厚木市が運行する地域コミュニティ交通「ココモ」の運行支援にも取り組んでいる。週2回1日4便、地域を巡回する鳶尾コース全便に、コミュニティカフェ荻野のメンバーが助手として同乗し、高齢者の乗降をサポートする。さらに、同会は利用者のニーズを聞きながら、運行ルートや時刻表の設定について市に提案している。同会の交通担当の美馬さんは運行ダイヤを記録し、時刻表が利用実態に適しているか確認しているようだ。この日午前中の便を利用した方に



聞くと「免許を返納してから、ココモがあることで助かっている。もっと本数が増えればありがたい」と話す。利用者同士で互いの健康を気遣う様子も見られるなど、地域の見守りの機能を果たしているようにも感じられた。

夕方になると、地区のスーパー「ユーコープ鳶尾店」前の広場にある桜の木にイルミネーションが灯される。鳶尾商店街の15事業者すべてに共催をいただき同会メンバーが飾りつける、鳶尾団地の冬を彩るイベントだ。「ユーコープ鳶尾店」店長の佐伯さんは「開店当初から鳶尾店は地域とお店との関係が密接で、地域の支えを強く感じている」と話す。

同会では、法人化して今年で10年になることを機に、今後の活動のあり方について一般利用者や同会役員・会員を対象にアンケートを実施したところだ。居場所づくりの継続希望年数を尋ねたところ、今後10年以上の継続を希望する回答が最も多かった。また、活動資金の確保へ協力可能なことについての質問では、お気持ち代となるコーヒー代の値上げには慎重な意見が多かった。しかし「お困りごと支援」の料金については、値上げを容認する回答が多いこともわかった。

土谷さんは「地域密着の活動で幼稚園児から97歳までの地域のみんが安らげる場所になっている。居場所を求める住民の声を汲み取り、支える側の高齢化が進む状況に対応して、持続可能な運営の仕組みを作っていければ」と話す。日々の生活に「楽しさ」を実感できる地域づくりを、コミュニティカフェ荻野は住民とともにこれから一歩ずつ積み重ねていく。

**【連絡先】** 一般社団法人コミュニティカフェ荻野  
 神奈川県厚木市鳶尾 2-25-6-103  
 TEL：046-281-9623